

第11回 鵠川・沙流川減災対策協議会【議事概要】

日 時：令和6年6月19日(水) 13:30～14:30
場 所：ふれあいセンターびらとり 多目的集会室
会議資料：室蘭開発建設部ホームページに掲載
参加機関：室蘭開発建設部
室蘭地方気象台
旭川地方気象台
胆振総合振興局
上川総合振興局
日高振興局
むかわ町
厚真町
占冠村
日高町
平取町
北海道警察 (WEB)
北海道旅客鉄道 (株) (WEB)
北海道電力 (株) (WEB)



<開会>

【北海道開発局 室蘭開発建設部 部長】

当協議会は、平成28年5月の設置以降、今回で11回目となる。この間、コロナ禍の影響による書面開催期間を経て、前回開催より対面開催となり、再び「顔の見える関係」となった。

皆様ご承知の通り、近年は気候変動の影響によって全国各地で毎年のように水害が発生し、かつ激甚化が進んでおり、「施設では防ぎ切れない大洪水は発生するもの」という考え方にに基づき、ハード・ソフトが一体となった水防災意識社会再構築ビジョンを作成し、社会全体でその取組を進めている。

当協議会では鵠川・沙流川における概ね5年間の減災に関する取組方針に基づき令和7年度までの目標達成に向け、関係機関の皆様が取組を推進頂いているものである。

今回の協議会では、関係機関の取組方針に基づくフォローアップの内容や提供された情報を相互に確認頂く事で、これから出水の時期を迎えるにあたり、その対策に万全を期すために、活発な意見交換が為されることを望んでいる。



<議事(1) 鵠川・沙流川減災対策協議会規約の改訂について> 資料1

【室蘭開発建設部 治水課】

幹事会の組織機構に変更があり、室蘭開発建設部では厚真川水系砂防事業所が廃止となり、また、むかわ町では、経済建設課主幹から参事へ変更となった為、協議会規約の改訂を行う。

<議事(2) 鵠川・沙流川の減災対策協議会の経緯について> 資料2

【室蘭開発建設部 治水課】

平成28年5月に本協議会が設立され、同年11月には、概ね5年間を目標とする鵠川・沙流川の減災に関する取組方針が策定・公表された。その後、平成30年2月には、北海道の管理区間も含めた取組方針に改訂され、令和3年6月には、現在の取組方針が策定された。

今年度は、5月に減災対策協議会の幹事会を書面にて開催し出水期前の情報共有を行い、今回の協議会開催に至っている。

＜議事（３） 鷗川・沙流川の取組方針に基づくフォローアップについて＞ 資料３

【鷗川沙流川河川事務所 課長】

洪水氾濫を未然に防ぐ対策の内、鷗川・沙流川の河道掘削を進めている。
また、水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項として、重要水防箇所の見直し、及び共同点検を行っており、今年も６月末実施に向けて現在調整を進めている。

【室蘭開発建設部 治水課】

情報伝達、避難計画に関する事項として、鷗川・沙流川流域水害タイムラインの意思決定訓練や運用訓練を今年度も引き続き実施する予定となっている。
また平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項として、管内の小学校を対象としたマイ・タイムラインの作成支援を行っており、今年度は既に鷗川流域で１校、沙流川流域で２校の小学校より要請があり、今後実施を予定している。

【室蘭開発建設部 防災課】

社会経済活動の早期復旧のための取組、氾濫水の排水・施設運用等に関する取組の一環として、排水ポンプ車等の災対車の出動要請に係る関係機関との調整方法についての確認訓練を実施する事となっている。また、当課として毎年実施している訓練についても例年通り継続して実施する。

【室蘭地方気象台 台長】

気象庁では最近、線状降水帯による大雨の可能性について、半日前からの呼び掛けを開始していたが、５月２７日以降、道全域の情報のみならず、胆振・日高といった地方単位でのより細分化した情報の発表を行っている。この事例以外にも、最新の科学技術を反映した気象情報の高度化を進めている所である。



【室蘭地方気象台】

気象台の今年度の取組としては、悪天時におけるメールやホットラインを用いた気象解説を行い、関係者がより防災対応を行いやすいよう、より良い情報の発信に努めていく。また、関係各所と連携を図り、タイムラインの訓練の実施や、勉強会、講和等を随時実施して行きたい。

【旭川地方気象台】

室蘭地方気象台と同様、情報伝達、避難計画等に関する事項について、毎年の課題となるが、最新の気象情報の発信、内容改善に取り組んでいく。
また、同事項の取組として、小学生を対象とした一日防災学校等による防災教育や、関係機関職員を対象とした防災ワークショップについて、依頼があれば継続して対応していく。
加えて、今回の取組の記載には無いが、上川・留萌地方を中心として運用中の Zoom を用いた防災連携 TV についても、日々や悪天時の気象解説や、関係機関と相互に連携して情報共有を行う場として継続利用して行く。

【旭川地方気象台 台長】

災害時対応の円滑化には、平時から関係機関の連携が重要であると考えている。旭川地方気象台の取組として、先ほど話にあった防災連携 TV については平時から毎週定期的に開催して気象トピックを発信し、警報級の気象が予想される場合については臨時で開催し、予想される現象や災害規模等の情報を発信する事で気象台の持つ危機感を関係機関と共有する事としている。臨時解説の機会が無いに越したことはないが、有事には適切に防災情報を発表し、気象台の役割を果たして行きたい。



【胆振総合振興局 室蘭建設管理部事業室】

洪水氾濫を未然に防ぐ対策ハード対策として、管理河川の掘削工、築堤工、河道内樹木の伐採を実施している。具体箇所については鶴川流域の入鹿別川にて掘削・築堤工、厚真川にて河道掘削工を実施中であり、また、沙流川流域では長知内地区の河道掘削を進めている。これらの河川を含め、流域内の管理河川については、樹木の繁茂状況等を見ながら、必要に応じて伐採を進めて行きたい。

【胆振総合振興局 地域創生部危機対策室】

危機対策室の取組について、まず、情報伝達、避難計画等に関する事項として、7月に実施される鶴川むかわ町水害タイムライン運用訓練に引き続き参加し、タイムラインの認識共有を図る。次に平時から住民等への周知・教育・訓練に関する事項として、道の取組である地域防災マスター制度に基づき、今年8月に住民を対象とした北海道地域防災マスター認定研修会を実施予定であり、平素より災害時における地域での防災活動のリーダーとなるような人材育成に努める。また、ホームページの防災情報を拡充し、情報提供の強化にも努めていく。このように、当対策室としては市町・関係機関の皆様と連携し、地域防災力の向上のための様々な施策を推進して行きたい。

【上川総合振興局 旭川建設管理部】

旭川建設管理部の取組については、洪水氾濫を未然に防ぐ対策として、現地状況に応じた河道内樹木の伐開などを行い適正な河道の維持管理を行っている。

鶴川流域では、占冠村の双珠別川において、市街地を中心とした伐木を計画的に実施しており、今年度も上流側に向け、秋頃より伐木の実施を予定している。

【上川総合振興局 地域創生部危機対策室】

当室では大きく分けて、市町村主催の訓練や研修会、一日防災学校に対する実施支援と、北海道地域防災マスターに関する研修の2つの事業の実施を予定している。具体内容として、市町村が実施する訓練や研修会については、災害対策本部の設置訓練や、関係職員への防災知識に関する研修等、市町村のニーズに合わせて企画から実施までをサポートしている。

また、学校の授業として実施する一日防災学校については、子どもたちが楽しみながら防災について学べるよう、避難所運営ゲームや防災クイズなど、学校のニーズに合わせて企画から当日の運営までをサポートしている。

地域の防災活動リーダーとして活躍して頂く「北海道地域防災マスター」に関する研修会については、今年度の実施予定として、新規の認定研修会を中富良野町にて本年12月に予定している。

【上川総合振興局 旭川建設管理部 事業室長】

上川総合振興局では、昨年8月の豪雨により天塩川流域の士別市等で浸水被害が発生した事を受け、事前の減災対策の必要性を再認識した。近年は気候変動の影響もあり、どの流域でも大規模な被害が発生する可能性を踏まえ、鶴川流域においても全流域の関係機関が連携し、減災に取り組む必要があると考えている。



【日高振興局 地域創生部危機対策室】

日高振興局では平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組を2点進めている。

1点目は一日防災学校・防災教育の取組で、各学校で実施している一日防災学校において、町の関係者と連携しながら防災教育を行っており、先日、日高町内の富川高等学校において、いわゆる「避難所運営ゲーム Do はぐ」を活用した訓練を実施した。

2点目は域防災活動のリーダーとなる地域防災マスターを認定・育成する取組で、北海道地域防災マスター認定フォローアップ研修については毎年開催しているが、5月21日に日高町で開催した研修会において、室蘭開発建設部治水課と室蘭地方気象台の協力の元、沙流川の洪水に関する防災講話、及び気象災害についての講話を行った。今後、8月にも高校生を対象とした同様の研修を予定しており、引き続きご協力頂きながら取組を進めて行きたい。

【むかわ町 情報防災対策室 室長】

まずは本日欠席の町長竹中に代わり、昨年度の鵜川むかわ町水害タイムラインに関する各種訓練、会議等の鵜川の減災に向けた取組にご協力頂いた関係機関の皆様には御礼申し上げます。

むかわ町の取組として、情報伝達、避難計画等に関する事項については、7月9日に、鵜川むかわ町水害タイムライン、事務局機関による意思決定訓練、及び参画機関全体による運用訓練を、昨年度に引き続き実施し、タイムラインの立ち上げ、ステージ移行等の実践的な訓練を予定しているため、ご出席の関係各位には何卒ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。また、昨年度に引き続き避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成に取り組み、自主防災組織等による訓練の実施へ理解を深めていきたい。

次に水防活動の効率化、及び水防体制の強化に関する事項について、昨年度に引き続き出水期前に、鵜川沙流川河川事務所と氾濫危険箇所や樋門、監視カメラ等の設備について点検を実施する予定であると共に、打ち合わせ、情報共有を併せて行い、鵜川の河川防災における課題を再認識したいと考えている。これらの方針に基づき、今年度も各種訓練研修を行い、タイムライン運用の習熟に努め、水害への対応力強化のため必要とされる取組を継続実施して行きたい。

また、浸水害、河川氾濫及び避難行動等、防災情報や災害時取るべき防災行動については、テレビのハイブリッドキャストサービスを活用した情報発信、防災アプリや SNS、防災行政無線、IP 告知端末等による情報発信の多重化を行う等フル活用しながら、町民の皆様一人一人の防災力向上を図っていききたい。鵜川の減災の取組を強力に推進には、源流である占冠村から鵜川までの関係機関の皆様との、より一層の緊密な連携と情報共有が不可欠であると考えており、今後もご支援とご協力を賜わりたく、お願い申し上げます。



【厚真町】

本年度は情報伝達、避難計画等に関する事項として、コミュニティ・タイムラインを策定し、地域防災力の強化推進を図りたい。また、コミュニティ・タイムライン策定後は、訓練を通して実行性の確認と問題点の改善をしていきたいと考えている。

加えて災害時職員行動マニュアルにタイムライン防災の追記・追録をしていきたい。また、平時からの住民等への周知等については、希望する自治会等に対し、ハザードマップの説明や出前講座の開催を考えている。

【厚真町 副町長】

昨年度は、平成 30 年北海道胆振東部地震に際し、緊急的に策定した厚真地区緊急対応タイムラインの見直しを行い、ワークショップ、運用訓練を経て、災害時の具体的な役割分担等を明確にした、厚真町水害対応タイムラインとして、新たに策定を行った。

本年度は更なる地域の防災力の向上を推進するため、コミュニティ・タイムラインを 2 地区で策定する予定で、これらをモデルとして、全町に広げていきたい。

今後とも災害による犠牲者を一人も出さないことを目指して取組を進めていくにあたり、関係機関の皆様にはお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。



【占冠村 村長】

占冠村の取組予定として、平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項について、小中学生に対する防災教育を毎年実施しているが、今年は占冠中央小学校、それから占冠中学校、トマム学校の 3 校で実施しようと計画している為、関係機関の皆さんにもご協力を頂きたいと考えている。

もう一点、住民を対象とした防災訓練について、村主催の防災訓練において職員・住民向けに講演を行うと共に、避難訓練を同時に実施していきたい。本年は 8 月 31 日実施予定の為、関係機関への要請の際には、何卒ご協力頂きたい。

更に記載は無いが、先ほど上川総合振興局建設管理部からの話にあった鵜川上流の双珠別川において、計画的な流域内の流木伐採、河床の砂利除去等を毎年計画的に実施して頂いている。この場をお借りしてお礼申し上げますと共に、今後の計画遂行についても引き続きよろしくお願い申し上げます。



【日高町 町長】

タイムラインに基づいた情報伝達、意思決定の訓練を引き続き行っていきたい。また、学校現場においては防災教育としてマイ・タイムラインの学校での作成のサポートというお話があったが、これを新たな取組として関係機関のご協力を得ながら進めていきたい。

ここからは課題の話となるが、タイムライン作成から時間が経つにつれ、住民からのタイムラインへの関心が薄まっているように思う。我々の町は沙流川の一番下流に位置しており、そこで人口も一番多い町である為、今まで話が出ていた地域毎のコミュニティ・タイムラインを新たに策定するといった取組を通じ、常にタイムラインへの意識付けを図る事が必要だと考えている。

最近では気候変動が大きくなっており、北海道でも雨量が 1.15 倍と全国よりも影響が大きく、川の流量も 1.2 倍、災害リスクが倍になるというお話もあって、河川整備の基本方針も変更されたとお聞きしている。そういった事も含めて住民の方へのその意識付け、これを重点的に取り組んでいきたいと思っている。



【平取町 町長】

タイムラインに基づく防災避難体制の構築について、平成 15 年の大規模洪水以降、大きな災害が無い事もあり、住民の防災に対する危機意識が薄れているように思う。

北海道で 2 番目にタイムラインを構築した河川が沙流川であるという経緯もあり、今年は町主催でタイムラインを主とした防災セミナーを開催したいと考えている。近年はコロナ禍の為、机上訓練を強いられていたが、今年は是非実際に避難行動を伴う訓練を実施したいと検討している。

また、沙流川の河道掘削についても、今後の気候変動に伴う備えとなるが、掘削した土砂の堆積場の提供についても、道や室蘭開発建設部の方々と協議を進めながら対応していきたいと考えている。

更に、防災担当の部署が人員的に手薄であると感じている為、今秋より専門的な防災担当を配置して災害に備えていく事も考えている。



<議事（４） 鵠川・沙流川の重要水防箇所の更新について> 資料 4

【室蘭開発建設部 治水課】

重要水防の更新について、令和 5 年度までの工事履歴を考慮し、重要水防箇所の見直しを行った。鵠川の重要水防箇所では、越水・溢水箇所の B ランク評価だった箇所が、評価なしに変更になった箇所があり、沙流川の重要水防箇所では、同様に、越水・溢水箇所の B ランク評価だった箇所が、評価なしに変更になった箇所がある。

また、沙流川の水衝・洗堀箇所の評価については、令和 4 年度に発生した出水で河岸洗堀を受けた箇所が、昨年度に対策工を完了させたため、評価無しに変更となった。

＜議事（５）情報提供＞ 資料５、別冊資料「まるごとまちごとハザードマップ取組事例集」

【室蘭地方気象台】

大きく４つの話題を提供させて頂く。

１つ目は昨年における大雨警報・洪水警報の発表回数について、昨年、大雨警報・洪水警報ともに５回ずつの発表があった。なお、指定河川の洪水予報については鷗川・沙流川ともに発表は無かった。

２つ目は積雪深と累積降雪量の推移についてで、アメダスの穂別、日高ともに平年と比べて積雪量、累計の降雪量ともに少ない状況となっている。また、春先水位の上昇も見られたが大事には至らなかった。

３つ目は現在発表中の３か月予報についてで、６～８月の予想となるが、気温平年並みか、高めが予想されており、降水量については概ね平年並みか、平年より多くなることが見込まれている。また、新しい３か月予報は来週にも発表となる為、ご確認頂きたい。

４つ目は情報の改善についてで、まずは大雨をもたらす線状降水帯について、予測精度の向上に向けた取組をここ数年進めており、半日前予測・呼び掛けを、従来は「北海道地方」という広い範囲での発表をしていたが、令和６年５月２７日からは「胆振・日高地方」というように範囲を絞り込んで情報を発表できるようになった。

同じく情報の改善について、デジタルアメダスというものが出来た。気象庁では、アメダス地点毎の点としての情報のみ発表を行っていたが、それらを面的なデータとして提供できないか、という観点から取組がなされ、今年度から北海道地方を対象として先行実施でアプリが開発されている。近くにアメダス地点が無くても、所在地付近のデータを得る事が出来るため、是非ご活用頂きたい。

最後に、気象庁のマスコットキャラ「はれるん」が誕生２０周年を迎え、気象庁では様々なイベント等を企画している。本筋からはずれてしまうが周知させて頂きたい。



【室蘭開発建設部 治水課】

水防月間については、北海道では６月が水防月間となっており、水防に関する広報の実施、水防連絡会の開催、重要水防箇所の合同巡視、河川管理施設の巡視・点検等の活動を毎年行っている。また、こうした水防活動については、わかりやすくタイムリーにPR・情報発信をしていく「見える化」が重要であり、水害が発生し、活動を実施した場合には速やかな報告をお願いしたい。京都府福知山市消防団の水防活動事例を紹介しているので、報告の際の参考にして頂ければと思う。

続いて、「まるごとまちごとハザードマップ」については、居住地域をまるごとハザードマップと見立て、生活の中心となる街中に水防災にかかわる各種情報、想定浸水深や避難場所の情報等を表示する取組が各市町村で行われている。国土交通省では、「まるごとまちごとハザードマップ取組事例集」の改定が行われたため、その中から代表的な取組について何点か紹介させて頂く。札幌開発建設部の取組事例では、定期的な呼び掛けにより、設置自治体数が増加しているという事例が紹介されている。

留萌開発建設部の取組事例では、留萌市や地元商店街と連携し、人通りが多い商店街に設置した事例ということが紹介されている。

京都府木津川市の取組事例では、電柱や歩道橋へ青色のラッピング標識を施し、見やすさに配慮した事例が紹介されている。

取組における予算制度が紹介されており、まるごとまちごとハザードマップの取組では交付金の活用が可能となっているため、事業を推進する際には活用の検討をお願いしたい。

続いてワンコイン浸水センサ実証実験については、浸水の危険性がある地域に浸水センサを設置し、リアルタイムに状況を把握する実証実験を取組でおり、道内の企業や自治体にも参加を頂いている。現在、むかわ町から参加の意向を伺っており、この場を借りてご紹介させて頂く。なお、現在も参加者の二次公募を行っているため、関心のある自治体は室蘭開発建設部にご相談を頂きたい。



【室蘭開発建設部 治水課】

防災学習ポータルサイトについては、既存の防災教育ポータルサイトがリニューアルされ、新たに防災学習ポータルサイトとして公開された。今回のリニューアルでは、子ども向けページの作成、教材の見やすさの改善、検索の利便性向上、災害に関する写真・動画の追加等が主な内容となっており、各構成機関での防災学習等での活用をお願いしたい。

最後に、水害リスクコミュニケーションポータルサイトについては、国土交通省では、自らの水災害リスクを確認し、平常時において主体的な防災行動・減災行動を取ることができるように、有益な情報を一元的に集約した水災害リスクコミュニケーションポータルサイトを開設したため、ご紹介させて頂く。サイトの活用方法としては、浸水範囲や浸水頻度、土砂災害、水災害のリスクと不動産情報、これらの情報が1つの図面の中で一元的に確認することが可能であり、様々な場面で活用をお願いしたい。

【室蘭開発建設部 防災課】

TEC-FORCE 緊急災害対策派遣隊の活動について、本省ホームページに掲載されている情報から主なものを5つピックアップしてこの機会に情報提供させて頂く。

1つ目は被災状況の把握で、防災ヘリにより素早く被災状況を広域のかつ迅速に把握するような活動をしている。

2つ目は自治体の支援ニーズの把握で、我々は自治体からの要請に応じ、“リエゾン”と名の付いた情報連絡員を派遣している。リエゾンは自治体の要望を把握して、TEC-FORCE 隊員や災害対策用機械の全国からの被災地への派遣に繋げる仕事をしていて、大規模災害になれば、プッシュ型でお邪魔することもあり、その際は是非情報提供頂ければより円滑にバックアップ可能になる。

3つ目は公共土木施設の被害状況調査についてで、これは災害査定を指し、この支援にあたる事で、復旧予算要求の基礎資料等を提供が可能となる。

4つ目が最新技術の活用で、ドローンや遠隔操作式の重機を保有しているため、これを用いて人が入るには危険な作業現場においても支援が可能となっている。

最後に建設企業と連携した応急対応ということで、例えば排水ポンプ車を用いた緊急排水や、寸断した道路の啓開について、地元の企業と連携しながら緊急的に災害対策を行っている。これらの活動について、この機会に今一度皆様の心の中に置いて頂きたい。

また、北海道開発局が保有する建設機械の貸付について、北海道開発局をはじめ全国には建設機械・災害対策用機械を保有しており、道路維持や道路除雪、河川の維持等に使用中の機械も多数存在している。所轄だけではなく、自治体の皆様に貸付する制度があるという事をお伝えしたい。配布資料には必要な費用についての記載があるが、このうち特に負担の大きい機械貸付料が有事の際には無償となるため、有事の際には貸付の要望を連絡頂きたい。

最後に、資料には当部やそれ以外の全道に配置されている災害対策車の情報と、実際に要請する際の書面の記入方法が記載されている。有事の際はこちらを参考して頂きたい。また、迷った場合には電話対応が可能であるため、まずは記載の防災課電話番号へご一報頂きたい。



<閉会>

【胆振総合振興局 局長】

本日、関係機関の皆様の取組予定や、最新の情報提供を頂き、これらを確認、共有できたことは、洪水氾濫等の被害を最小化するために、ハード、ソフト両面の対策を推進する上で、大変参考になったと考えている。

道内では平成 30 年の胆振東部地震以降、大災害は発生していないものの、毎年局地的な豪雨による被害は発生している。

昨年夏の酷暑と同様、今年も酷暑が見込まれるため、先ほど気象台から情報提供頂いた通り、段々と精度が増しつつある気象情報に十分注意、活用しながら、災害に備えていただければと思う。

また、今後とも皆様方と緊密に連携し、防災・減災対策の推進に取り組んでまいりたく、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

